

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

公表：平成 31年 3月 1日

事業所

いろ縁びつ にじいろ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	人数が多い日は1階と2階で活動を分ける工夫をしていますが、今後もっと利用スペースの活用方法を改善を検討しています。
	②	職員の配置数は適切である	○		
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	スロープをレンタルして設置しています。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	○		限られたスペースで個々でやりたいものがそれぞれなので担当になった子をその場の状況をみて判断しています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページで公開している		○	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	
	⑨	職員の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		情報を開示して研修参加を呼び掛けていますが、今後更に研修や会議などを増やしていくよう心掛けていきます。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		ケース会議で意見を出したり、お話を聞いたりして支援計画を作成しています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		

適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		
	⑮	活動プログラムが固定化しないように工夫している	○		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日おこなわれる支援の内容や役割分担について確認している	○		
	⑱	支援開始後には職員間で必ず打合せをし、その日おこなわれた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○	○	朝礼や夕礼時で行っています。
	⑲	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		上尾市、伊奈町の情報交換会に参加しています。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関との支援会議に参加し、相談員さんとの連携を図っています。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	○	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		利用が決まった時に保育所や幼稚園などに挨拶させて頂いています。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		特別支援学校等、担任の先生と面談させて頂いています。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○	○	今後は交流をしたいと考えています。

	⑳ (自立支援)協議会子ども部会や地域の子 ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	
	㉑ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	○		送迎時にお話しし、共通理解を図っています。
	㉒ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対して家族支援プログラム(ペア レント・トレーニング等)の支援を行っている		○	
保護者への説明等	㉓ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説 明を行っている	○		
	㉔ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支 援の提供すべき支援」のねらい及び支援内 容と、これに基づき作成された「児童発達 支援計画」を示しながら、支援内容の説明 を行い、保護者から児童発達支援計画の同 意を得ている	○		
	㉕ 定期的に、保護者からの子育て悩み等に対 しする相談に適切に応じ、必要な助言と支 援を行っている	○		
	㉖ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している		○	
	㉗ 子どもや保護者からの相談や申し入れにつ いて、対応の体制を整備するとともに、子 どもや保護者に周知し、相談や申し入れが あった場合に迅速かつ適切に対応している	○		
	㉘ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	○		
	㉙ 個人情報の取扱いに十分注意している	○		
	㉚ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通 や情報伝達のための配慮をしている	○		
	㉛ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域 に開かれた事業運営を図っている		○	
	非常時等の対	㉜ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、 感染症対応マニュアル等を策定し、職員や 保護者に周知するとともに、発生を想定し た訓練を実施している	○	
㉝ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救 出、その他必要な訓練を行っている		○		
㉞ 事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の 子どもの状況を確認している		○		
㉟ 食物アレルギーのある子どもについて、医 師の指示書に基づく対応がされている		○		アレルギーのチェック表を作成し、貼り出して います。

応	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットによく目を通すよう指導しています。また、会議を開き共有しています。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研究機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修参加を心掛けています。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		車イスに乗っているときの拘束は保護者様に了解を得ています。